

🚀 データとAIで未来を創る！

高崎健康福祉大学

データサイエンス・AI

リテラシープログラム

アドバンスド・エッセンシャルワーカー
として活躍できる！



地域を支える人材として
デジタル技術の活用は
必要ですね。

以下の科目
すべて履修、
単位修得で
修了証発行！
(卒業時)

主な内容について	対象科目名	単位
データ倫理(ねつ造、改ざん、盗用)	情報リテラシーⅠ	1
データ量の増加、計算機の処理性能の向上	情報リテラシーⅡ	1
スライド作成、プレゼンテーションなど	情報リテラシーⅢ	1
データ解析ツール(スプレッドシート)	情報リテラシーⅣ	1
AI等を活用した新しいビジネスモデル	情報リテラシーⅤ	1
AI(人工知能)/データサイエンス	情報リテラシーⅥ	1



わかりやすい！
学科に特化した内容で、
理解度を確認しながら進
めます。



安心して学べる！
オンラインでの履修のため、
自分のペースで受講。初め
ての方にもやさしい。



すぐに活かせる！
在学中の授業はもちろん、
卒業後も活かせます。

履修登録はシラバスを確認してお願いします。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 全学教務委員会 教養科目専門部会、内部質保証会議 基準別WG4

(責任者名) 町田修三
 (役職名) 教学部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和5年度より開始したプログラムであり、学生の履修状況は一定数確認できている。1、2年次には資格取得に向けた指定科目なども増えることもあって、CAP上限にあたることで履修できない学生もいるが、これから学年進行に伴いCAP上限に余裕があることで修了者が増加することが見込まれる。
学修成果	授業の内容を理解し、単位取得をした学生の割合が多く、学修成果としては一定成果を得ている。 履修中の学生はLMS機能のあるシステムを利用して講師との直接相談も可能であり、当該科目の演習など講師からのフィードバックも行っている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	理解度は相当高く、コメントでも教員による支援が確認できる。 以下、記載されたコメントの抜粋 ・小テストの結果や対面授業の時の学生の理解度を気にかけてくださったところがよかった。 ・資料が見やすくわかりやすかったです。 ・講義を見ながら実践ができ、ゆっくりの説明のためとてもわかりやすかったです。 ・資料が提示されていたので理解しやすかったです。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業内容についても教員による支援が充実しており、学生の理解度を確認しながら授業を進行しており、後輩履修者に対しても同様の対応が期待できる。 授業の紹介などでも既修得者の意見を添えるなどして対応できる。 尚、令和7年度までは科目名称から内容がわからない状況でもあるため、令和8年度以降に科目名に内容を括弧書きで表示するなど、工夫することを検討している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	前述のとおり、若い学年での修了が難しい学生もいるが、卒業までの学年進行に伴い当該科目の履修でプログラムの修了が見込まれるのであれば、履修率向上も期待できる。このプログラムがMDASHIに選定されることで、さらに学生の期待も増加すると見込んでいる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>当該教育プログラムの修了者は令和7年度時点ではないが、これまでの3つポリシー点検会議に参画している外部評価参画者の意見を踏まえて内容を構築しており、今後の活躍は期待できる。 また、卒業生に対する企業の評価については、別途アンケートを実施しており、本学卒業生の印象は比較的良好との結果を得ている。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>各学科の3つのポリシー点検会議で、それぞれ外部評価参画者として産業界から2名委嘱した委員と、教育改善委員として4名の学生を含めた会議を実施しており、毎年産業界の状況や在学生への期待など意見を交わしている。これらを各学科内で共有し、授業担当者も外部評価参画者の意見を踏まえた授業内容を意識している。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>小テストをすることで学びが理解できているかを確認できる仕組みを用いて、常に自身が理解できているかのフィードバックがあるため、取り組みやすい。本プログラムでは履修する科目すべてでLMS機能を用いたシステムで教員と学生がいつでもコミュニケーションをとることが出来る。また、グループで対応する課題なども実施している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>当該科目担当教員は、当該プログラムに求められる内容はもとより、それを活かした学科での学びの工夫を取り入れている。例えば群馬県が調査・報告している「令和3・4年県民健康・栄養調査報告書」を用いたデータ分析などを実施、学生が調査結果などを利用した分析など実データを扱うことで理解を深めつつ、水準を維持・向上することも期待できる。群馬県の下承を得て利用しているため、利用報告を画面で行っている。</p>